

第30回 地球研地域連携セミナー（滋賀）
『楽しさ』がつなぐ森里川湖
～ 身近な環境
守る楽しみ
つながる喜び～
アンケート結果

開催日 2019年12月22日（日）13:30～16:30
開催場所 滋賀県立琵琶湖博物館
アンケート回収率53%（配布数95枚、回収数51枚）

《利用規約》

公開成果物は、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの条件のもとで公開されています。



クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示 4.0 国際についてはこちら
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

公開成果物に掲載されたデータを引用もしくはデータを二次加工した成果を公表する際には、下記の引用情報を表示してください。

藤吉麗・西村武司・加藤尊秋・陀安一郎・奥田昇（2019）第30回地球研地域連携セミナー（滋賀）アンケート. 総合地球環境学研究所
<http://www.chikyu.ac.jp/rihn/project/img/Traceability/ShigaSurvey2019Results.pdf>

第30回地球研地域連携セミナー
『楽しさ』がつなぐ森里川湖 ～身近な環境 守る楽しみ つながる喜び～
アンケート集計結果報告について

開催日時：令和元年12月22日（日）13:30～16:30

開催場所：滋賀県立琵琶湖博物館

（滋賀県草津市下物町1091）

参加者について

○参加者総数 95名（関係者を含む）

アンケートについて

○用紙回収枚数 51枚

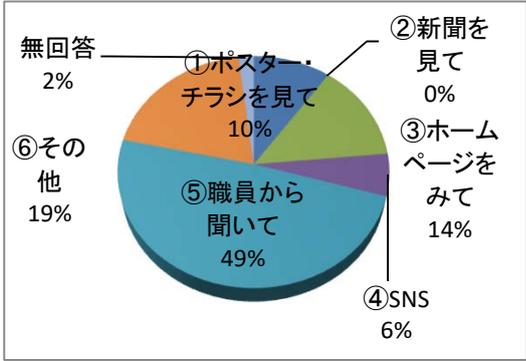
○回収率 53.6%

アンケート集計結果について

Q1. 本日のセミナーをどのような方法でお知りになりましたか。(複数回答可)

①ポスター・チラシを見て	5
②新聞を見て	0
③ホームページをみて	7
④SNS	3
⑤職員から聞いて	25
・RIHN	(0)
・湖南流域環境保全	(3)
・生態研	(1)
・指定なし	(21)
⑥その他	10
無回答	1

合計 51



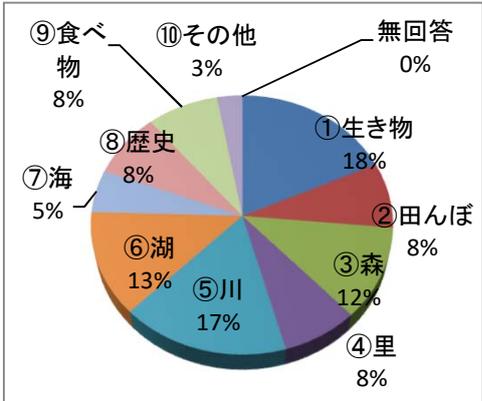
①の場所: 琵琶湖博物館1、放送大学滋賀学習センター1、生態研1

⑥の記述: 湖南流域環境保全3、学校活動2、地球研と流域協議会セミナー1、道で会った人1、メール1、父1、大原財産区管理会からのポスター1

Q2. 地域の自然や文化で、ふだんどんなことに関心がありますか？(複数回答可)

①生き物	38
②田んぼ	17
③森	24
④里	16
⑤川	35
⑥湖	27
⑦海	11
⑧歴史	17
⑨食べ物	17
⑩その他	6
無回答	0

合計 208

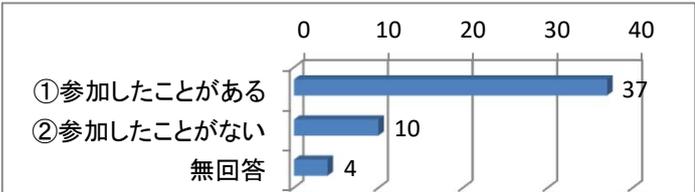


⑩の記述: 自然環境の状態、環境汚染、柚川と楽しむ会、山、大地

Q3. 地域の自然や文化にかかわる活動に参加したことがありますか？

①参加したことがある	37
②参加したことがない	10
無回答	4

合計 51

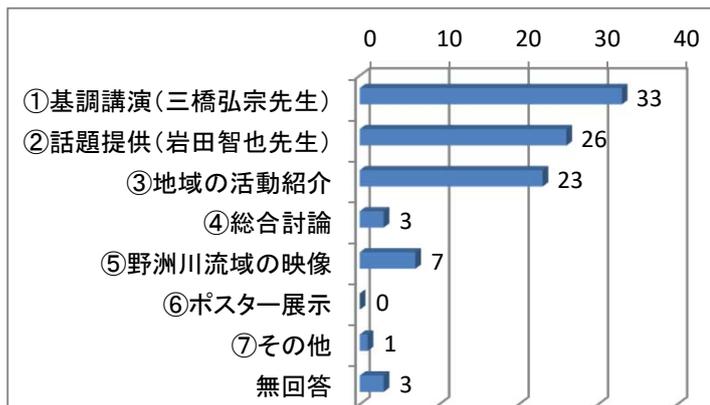


具体的活動記述欄:

村の歩き活動、博物館のはしかけの活動、野洲川自然観察会、鈴鹿山岳同好会、大川活用プロジェクト、野洲市内で子供の里山遊びや里山保全活動を主催、草津の町あるき・ホテル観察、新大宮川の小さな自然再生や清掃活動、菜の花の種の育成、自伐型林業サークル(甲賀木の駅プロジェクト)甲賀忍術研究会、祭、ホテル・鮎ずし、大石川調査隊、森は海の恋人など、田んぼの生き物採集、木の駅プロジェクト、自然観察会、仙川の清掃、源流をたずねて参加、甲賀愛林クラブ、木ノ駅会員、大原自治振興会、「大地の会」で活動、農村まるごと事業、環境にこだわり米を作る他の近くの水路の保全活動、19年間湖南流域活動・39年間湖南甲賀環境活動に参加

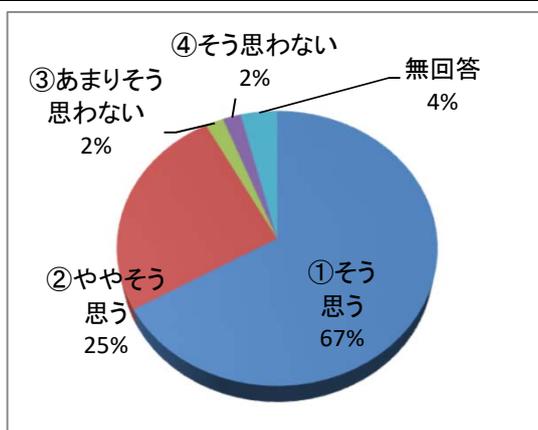
Q4. セミナーで印象に残ったプログラムは何ですか？（複数回答可）

①基調講演(三橋弘宗先生)	33
②話題提供(岩田智也先生)	26
③地域の活動紹介	23
④総合討論	3
⑤野洲川流域の映像	7
⑥ポスター展示	0
⑦その他	1
無回答	3
合計	96



Q5. セミナーに参加して、流域の上流と下流のつながりを意識する機会になりましたか？

①そう思う	34
②ややそう思う	13
③あまりそう思わない	1
④そう思わない	1
無回答	2
合計	51



Q6. 流域全体の視点からの話をふまえて、身近な環境を守るためには、何が大事だと思いましたか？以下に自由に回答してください。

生活や遊びの中で森や川や湖とひんぱんにかかわることで自然の変化に人々の目がよくとどくようになって活動への動機づけになるのではと思いました。

小さな取組みが地域生態系とどう深く関係しているのかを市民への環境教育の形で対話の場としてつくっていくとよいのではないかと思います。

身近な自然環境に目を向ける意識。

情報交換。

生活の中で川、河川敷を活用し、その過程で問題意識を持って活動できる社会を。

昨年甲賀の小佐治地区と交流。今年湖南流域との連携セミナーに参加。甲賀の駅・大久保里山:エネルギー改革により金がないと活動できない 里山の再生により持続可能な活動につなげつつある。

子供(小学生)の時から自然(山、海、川)になれ親しむ環境が失われている。そういった環境ははぐくんでいかなければならない。

日常生活上、常に環境特に水に関心を持って生活していきたい。山、森を大切にしなければならない。

川、自然を通じた「楽しさ」を上手く伝えていくことが大事と思います。

毎年動かないと環境は滞ってしまうと思いました。

地域、住民が身近にある自然にいい関心を持つこと。それには何か具体的に自分の身近な自然にかかわる(遊ぶ、保全活動など何でも)ことが一番。報告の中でもよく示されていたと思う。

みんなが地域に関心を持つこと。

川、湖、水のある所に生き物も人も集まってくる。にぎわいの源になるんだと感じました。

行政と住民との連携や多様な人々の参加。

川や湖と人との関わり合い

基調講演(三橋)→とてもつまらない。

話題(岩田)→参考になった

活動紹介、印象に残った。

まちづくり協議会等自治会の取組みをまず基本として若い人たち、子どもをいかに参加してもらえるか考えることが大切だと思いました。”見える化”の工夫が今後ますます重要になっていくと感じました。

子供のころから、身近な環境に触れ合いかわること高齢化している活動層も、結局、関わり具合によるのではないかと思える時があります。

上流中流下流とつながり琵琶湖につながっていることを身近に感じました。

せつかくの活動を終了させないための行政の後押し。環境保全を出口とした農業技術、土木技術の見直

自然と食、文化のつながりの再生、次世代や子供達とつながり。一緒に楽しむこと、楽しさを伝えること。

手の届く範囲の環境に気軽に気楽にとにかく回数関わること。

ハナから行政や補助金をアテにせずまず1人でやれることからやること。

ゴミ拾いをする。きたないものを流さない。

ご講演の皆様、とても素晴らしいご発表有難うございました。河川についての取り組み方、水田についての取り組み方、よく理解できて大変有意義な時間だったと思います。高校生と地域の取組みは新しい方法でかわいらしくほのぼのとしていて、お疲れ様でした。

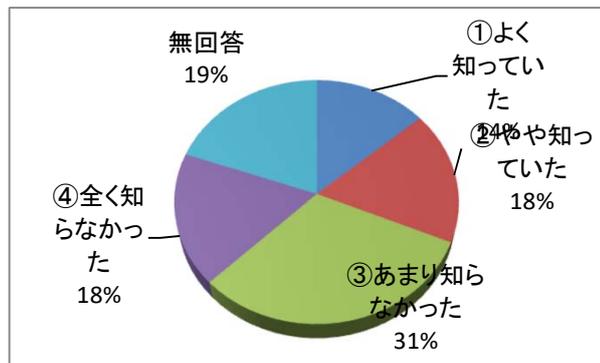
開発との調和。

川全体の地域が連携して保護活動をするのが大切だと感じた。ある地域の活動が他の地域につながっていくことが大事だと思う。

水をきれにする(だく水放水に協力する)。

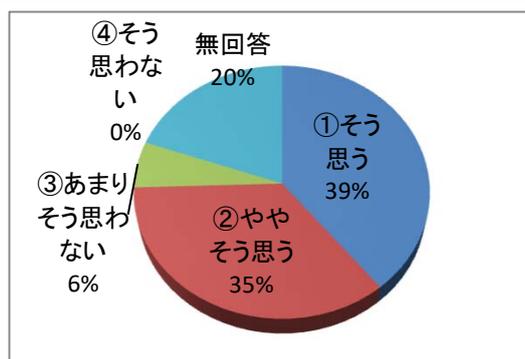
Q7. セミナーの話題提供では、野洲川流域のリンの由来について同位体を用いた研究が紹介されていました。「同位体」について、セミナー以前から知っていましたか？

①よく知っていた	7
②やや知っていた	9
③あまり知らなかった	16
④全く知らなかった	9
無回答	10
合計	51



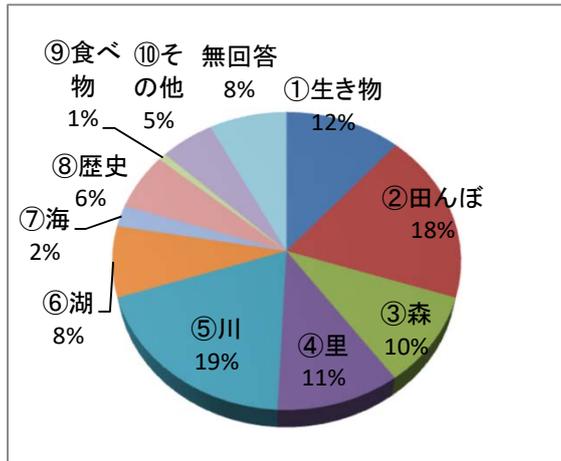
Q8. セミナーの話題提供で、「同位体」を用いてリンの由来を知ることが、今後の地域活動の役に立つと思いますか

①そう思う	20
②ややそう思う	18
③あまりそう思わない	3
④そう思わない	0
無回答	10
合計	51



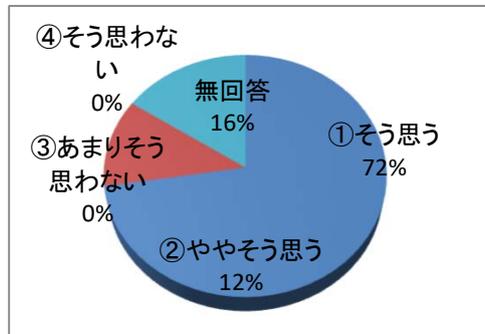
Q9. セミナーに参加して、新しく関心をもったことがありますか？(複数回答可)

①生き物	15
②田んぼ	24
③森	13
④里	14
⑤川	25
⑥湖	10
⑦海	3
⑧歴史	8
⑨食べ物	1
⑩その他	7
無回答	10
合計	130



Q10. 今回のような、流域の上流と下流の交流を今後も続けたほうが良いと思いますか？

①そう思う	37
②ややそう思う	6
③あまりそう思わない	0
④そう思わない	0
無回答	8
合計	51



Q11. ポスター展示をご覧になりましたか？印象に残ったポスターの感想をお書きください。

リンのポスター。地球環境問題の1つの深刻な問題であるリンについて具体的にイメージすることができた。

楽しかった。

琵琶湖流域ガバナンス

小佐治の生きものたち

リンの流出のポスター

ポスターのとなりにあった動画が良かったです。

小佐治の生き物調査

良かったです。

どの川もいろいろな取り組みをしていた。

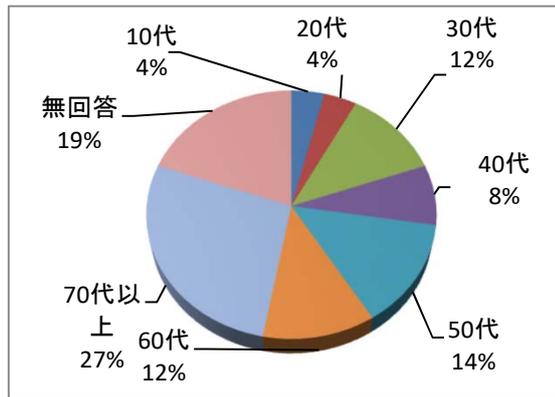
何を訴えたいのかよくわかりませんでした。

小佐治の生きもの

Q12. 差支えない範囲で以下の事項にお答えください。

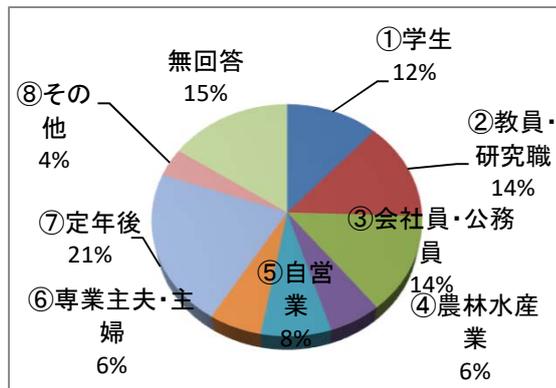
(1)年代

10代	2
20代	2
30代	6
40代	4
50代	7
60代	6
70代以上	14
無回答	10
合計	51



(2)職業

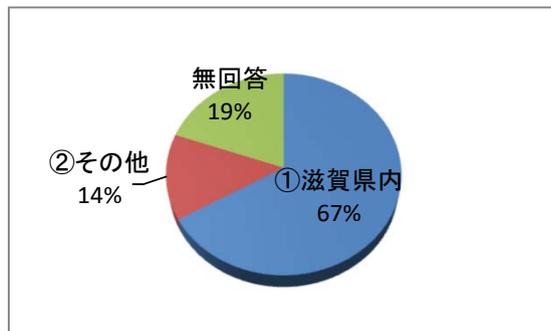
①学生	6
②教員・研究職	7
③会社員・公務員	7
④農林水産業	3
⑤自営業	4
⑥専業主夫・主婦	3
⑦定年後	11
⑧その他	2
無回答	8
合計	51



⑦定年後前の職: 社会教育センター1、会社員5、公務員7、公務員1、教師1、通信業1、プラントエンジニア1、アルバイト1 他

(3)住所

①滋賀県内	34
②その他	7
無回答	10
合計	51



草津市12、甲賀市11、大津市4、野洲市2、京都市2、彦根市1、守山市1、岐阜市1、吹田市1、大阪市1、枚方市1

Q13. 本日のセミナーに対してご感想やご要望など自由にお書きください。

アンケート集計枚数51枚中、自由記述に答えているものは14枚あった。

全体的に時間がたりない。

いっしょに活動する、いっしょに遊ぶ、一緒に食べる、一緒に作る楽しさを伝えることが出来れば。

甲南高校生が発表してくれたことがうれしかった。若い人が関心を持っていただきたい。より多くの人々に関心を持っていただき、参加するようもっと強くアピールしていただきたい。

今日のような勉強と実地体験ができる、交流もできるような研究会をもっと開いてゆけば”楽しい”

参加者の声かけ、SNSでの発信、見える化、楽しさを伝える

多様な事業者にも当事者意識を持って参加してほしい。

今後若い人、子どもたちをいかに参加させていけるか、改めて考えさせられるセミナーでした。参加させていただいて本当に良かったと思います。

このような地域の取組みを滋賀県の教科書に掲載する。

河川敷の草・木・竹などを利用した地域、流域内循環型農業モデルを提案し、広めていきたい。
里山と川と町をつなげるのは生産活動＝農業だと思う。

地域の人たちでふるさとを守るためにゴミひろいをしてみたい。

大阪万博公園の水族館ニフレル？だったですか、魚と芸術の新しいコラボ展示は非常に素晴らしいものでしたので参考になさってはどうかと思いました。信楽焼も芸術作新として魚とコラボできないものかと思います。フグ類とタヌキは顔が似ていますし、おもしろいかと。(イラストあり)

地元の小学校や中学校などで紹介し、地元の子どもたちに知ってもらうことが大切だと思った。こういうセミナーを高校などでも行なったら良いと思う。

上下流(甲賀市)と下流の連携による森づくりに下流域に県内の方々を参加させる方法を検討する。

館内について、食事を自分で持って来たのを食べられる場所が欲しかった。タッチパネルで動きにくいものがあつたのでチェックしてください。館内の二人の従業員の方がこのセミナーをご存知なかったのとホールの場所が分かりづらいので早く来られるお客様のおられるので当日立て看板を朝から出してほしいです。世界のあし、チチカカ湖のトラなどとの比較があるとおもしろいと思いました。